

環境にやさしい暮らしを応援

家庭用創エネ省エネ設備の導入に奨励金

西脇市では、家庭における二酸化炭素の排出抑制を図るため、省エネ設備などの導入に対して奨励金を交付しています。

◆対象設備（いずれも未使用のもの）

- 太陽光発電システム
- 太陽熱利用システム
- 家庭用燃料電池（エネファーム）
- 自然冷媒ヒートポンプ給湯器（エコキュート）
- 潜熱回収型ガス給湯器（エコジョーズ）
- 潜熱回収型石油給湯器（エコフィール）
- 家庭用蓄電池
- 電気自動車充給電設備
- 電気自動車
- プラグインハイブリッド自動車
- ホーム・エネルギー・マネジメントシステム（HEMS機器）
- 省エネルギー冷蔵庫（省エネ冷蔵庫）

※対象となる設備の要件は、右のQRコードを読み取って、市ホームページをご覧ください。



◆対象者

自分が住む、または住もうとする市内の住宅に、対象設備を設置した方、対象設備付きの住宅を購入した方、電気自動車またはプラグインハイブリッド自動車を購入した方で、次の全ての条件を満たす方

- ①交付申請時に市内に住民登録がある方
- ②市税等を滞納していない世帯の方

◆奨励金額

「へその街にしわき共通商品券」で交付します。金額は対象設備ごとに、市内業者または市外業者かによって異なります。

【例】

- 太陽光発電システム
市内業者の場合=1キロワット当たり3万5千円/上限10万円
市外業者の場合=1キロワット当たり2万5千円/上限6万5千円
- 電気自動車 10万円

◆申請方法

下記へ交付申請書を持参してください。申請書は市ホームページからダウンロードできます。

- ◆受付期間 令和2年3月31日(火)まで
- ◆申込み・問合せ 環境課（市役所内線391）



中小企業経営者・勤労者の皆さんへ

融資制度をぜひ活用ください

西脇市では保証料の補給や低利で融資が受けられる制度を設けています。各種融資制度の対象や融資条件などをお知らせします。※融資制度は申し込みが予定件数に達した時点で締め切ることがあります。

中小企業資金融資金制度

中小企業者の皆さんに、事業資金を低利で融資します。市が保証料の半額を負担します。

◆対象

- ①市内に事業所を有し、引き続き1年以上同一事業所を経営している方
- ②兵庫県信用保証協会の保証対象業務を営んでいる方
- ③市税完納者

◆融資限度額

運転資金Ⅱ1千万円▽設備資金Ⅱ1,500万円▽併用の場合Ⅱ1,500万円▽無担保・無保証人融資Ⅱ1千万円

◆融資期間 7年以内

◆貸付金利（固定金利）年1・10%

◆補給額

市が兵庫県信用保証協会の保証料の半額を負担します。

◆申込み・問合せ

商工観光課（市役所内線268）



勤労者住宅資金融資制度

勤労者住宅の建設・購入などのための資金を低利で融資します。

◆対象

- ①同一場所に1年以上居住し、同一事業所に1年以上勤務している方
- ②市内に自己の住宅を建築・増改築または購入する方

③20歳以上60歳未満の市税完納者

◆融資限度額 2千万円

◆融資期間 35年以内

◆貸付金利（固定金利）年1・87%

◆申込み・問合せ

商工観光課（市役所内線268）

茜が丘勤労者住宅資金融資制度

野村町茜が丘市有分譲宅地を購入し、住宅を建築するための資金を融資します。

◆融資限度額 3千万円

◆融資期間 35年以内

◆貸付金利（固定金利）年1・87%

◆申込み・問合せ

次世代創生課（市役所内線397）

ごみダイエット通信

■環境課（☎22-3111）

第25話 〜レジ袋の使用は必要最小限に〜

買い物に便利な「レジ袋」。しかし、買い物をしてから帰宅するまでの間に捨てられていることも、よく目にします。レジ袋は「使い捨て文化の象徴」ともいわれています。今回はそのレジ袋の使用について考えてみましょう。

市内でのレジ袋の使用量

1人当たり年間300枚のレジ袋を使っているといわれています。市内全体で考えれば、年間約1,200万枚を使っていることになります。

レジ袋の使用が減ると…

市内で使われるレジ袋をゴミとして焼却すると、約380トンもの二酸化炭素が発生します。これは森林約100ヘクタール（東京ドーム約22



個分)の力を借りないと吸収しきれない量です。レジ袋を全く使わないという事は難しいと思いますが、使用枚数を減らすことで、ごみを減らせるだけでなく、自然環境を守ることもつながります。レジ袋の使用は必要最小限に抑えましょう。

日々の心掛けでレジ袋を削減

マイバックを活用するなど、私たち消費者が少し意識することで、レジ袋を使わずに済みます。

最近では、レジ袋の有料化や、レジ袋を不要とする方へのポイント付与など、消費者にレジ袋の使用を控えてもらえるような取り組みをしています。このような環境に配慮した取り組みを私たち消費者が理解し協力することで、レジ袋の使用を減らすことができます。マイバックなどを活用して、レジ袋削減に取り組みしましょう。